

研修医のための

精神科 ハンドブック

Psychiatric handbook for residents

編集

日本精神神経学会

医師臨床研修制度に関する検討委員会

医学書院

▶▶▶ 執筆者一覧

編集：日本精神神経学会 医師臨床研修制度に関する検討委員会

(相澤明憲 川寄弘詔 紫藤昌彦 福田正人 水野雅文 森 隆夫 米田 博)

執筆(執筆順)

- 米田 博 大阪医科大学教授 神経精神医学教室
神庭重信 九州大学 名誉教授
福田正人 群馬大学大学院教授 神経精神医学
森 隆夫 あいせい紀年病院 理事長
水野雅文 東邦大学教授 精神神経医学講座
池田暁史 文教大学人間科学部教授 臨床心理学科
樋口輝彦 日本うつ病センター 名誉理事長
山寺 亘 東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 精神神経科 診療部長
平田豊明 学会 木村病院 顧問
數井裕光 高知大学教授 神経精神科学
八田耕太郎 順天堂大学大学院教授 精神・行動科学
曾根大地 UCL Institute of Neurology, Department of Clinical and Experimental Epilepsy
渡辺雅子 新宿神経クリニック 院長
永田利彦 壺燈会 なんば・ながたメンタルクリニック 院長
井上 猛 東京医科大学主任教授 精神医学分野
林田泰斗 東京医科大学 精神医学分野
池淵恵美 帝京平成大学大学院教授 臨床心理学研究科
淵野勝弘 淵野会 緑ヶ丘保養園 理事長
清水栄司 千葉大学大学院教授 認知行動生理学
関 陽一 千葉大学医学部附属病院 認知行動療法センター
松本俊彦 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 部長
松崎尊信 久里浜医療センター 精神科 医長
樋口 進 久里浜医療センター 院長
西園マーハ文 明治学院大学心理学部教授 心理学科
金生由紀子 東京大学医学部附属病院准教授 こころの発達診療部

松本英夫	東海大学教授 精神科学
山之内芳雄	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 精神医療政策研究部 部長
近藤直司	大正大学心理社会学部教授 精神医学
明智龍男	名古屋市立大学大学院医学研究科教授 精神・認知・行動医学分野
内富庸介	国立がん研究センター中央病院 支持療法開発部門 部門長
小笠原一能	名古屋大学医学部附属病院 卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
尾崎紀夫	名古屋大学大学院医学系研究科教授 精神医学・親と子どもの心療学分野
岡崎伸郎	国立病院機構仙台医療センター 総合精神神経科 部長
紫藤昌彦	コスモス会 紫藤クリニック 院長
大野 裕	認知行動療法研修開発センター 理事長
伊藤順一郎	メンタルヘルス診療所しっぽふぁーれ 院長
中村元昭	昭和大学発達障害医療研究所 副所長
鈴木道雄	富山大学学術研究部医学系教授 神経精神医学講座
河西千秋	札幌医科大学教授 神経精神医学講座
井上幸紀	大阪市立大学大学院教授 神経精神医学
秋山 剛	NTT 東日本関東病院 品質保証室 室長
康 純	大阪医科大学准教授 神経精神医学教室
斎藤 環	筑波大学教授 医学医療系
岸本年史	奈良県立医科大学教授 精神医学講座
成瀬暢也	埼玉県立精神医療センター 副病院長
五十嵐禎人	千葉大学教授 社会精神保健教育研究センター
渡邊さつき	埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 講師
村井俊哉	京都大学教授 精神医学
加藤忠史	順天堂大学大学院主任教授 精神・行動科学
中込和幸	国立精神・神経医療研究センター 病院長
久住一郎	北海道大学大学院教授 精神医学
津川律子	日本大学文理学部教授 心理学科
岡田幸之	東京医科歯科大学大学院教授 精神行動医科学
小林聡幸	自治医科大学教授 精神医学

査読・校正協力

松本ちひろ	日本精神神経学会
五木田紳	心の風クリニック千葉
小原圭司	島根県立心と体の相談センター 所長
堀 有伸	ほりメンタルクリニック 院長

はじめに

医師臨床研修制度は、平成16年度から、①医師としての人格を涵養する、②プライマリ・ケアへの理解を深め患者を全人的に診ることができる基本的な診療能力を修得する、③アルバイトせずに研修に専念できる環境を整備する、という3原則を基本に必修化されました。当初精神科は必修科目とされていましたが、5年ごとの見直しの中で選択必修科目となり、経験すべき症候、疾病・病態に精神症状や精神障害が取り上げられているにも関わらず、必ずしも全ての研修医が精神科での研修を行わなくてもよいという状況になっていました。

ところが厚生労働省による患者調査によれば、ここ10年あまりの間に精神疾患を有する患者数は倍増し、ことうつ病や認知症などの患者数の増大が顕著となり、精神科医療の重要性は急速に増しています。そして平成25年には、精神疾患は、国民に広く関わる疾患として重点的な対策が必要な、地域医療の基本方針となる医療計画に盛り込むべき疾患の一つに位置付けられています。さらに、災害支援、職場や教育現場でのメンタルヘルスなど、さまざまな社会的問題に関連した「こころのケア」の重要性も指摘されています。

したがって、これまで以上に多くの患者が、精神・神経症状を抱えてさまざまな診療科を受診することが予想されます。いうまでもないことですが、精神疾患の診療能力を高めることは、精神疾患を見落とさないというだけでなく、それらの症状を安易に「気にしすぎや精神的なもの」と決めつけてしまい、隠れた身体疾患を見落とす可能性を減らすことにもつながります。

このように精神科医療の重要性が高まる中で、医師臨床研修制度の見直しが行われ、2020(令和2)年度からの臨床研修では精神科が選択必修から必修科目になりました。すなわち、全ての臨床研修医が、少なくとも4週間の精神科研修を行う中で、医師として最低限必要な精神医学の素養を身につけることが求められます。さらに最近の医学教育改革に対応して、臨床研修のプログラムに学修成果(アウトカム)基盤型カリキュラムが導入され、精神科での研修を通して医師としての基本的価値観や資質・素養などを修得することになりました。したがって、指導医は、研修医による必修科目としての精神科医療の学修をいかに支援するのか、その対応を改めて考える必要があります。

日本精神神経学会医師臨床研修制度に関する検討委員会では、今回の医師臨床研修制度の見直しへの対応を協議し、学修支援の教材として本ハンドブックを作成することにしました。このハンドブックは、精神科で経験すべき症候と疾病・病態について事例を通して学ぶことができるように工夫され、精神科への関心を深めるためのトピックスも取り上げています。研修医が、精神科での研修期間に、毎日数ページずつ読み込み、4週間で通読することを想定しています。

なお、このハンドブックを活用する研修医が専門医研修を修了する頃には、ICD-11が用いられるようになるものと考え、このたび改訂されたICD-11の分類・病名を用いています。ただし切り替わるまでは、ICD-10を用いますので、症例の診断名には、ICD-11の病名とそれに相当するICD-10の病名を並記してあります。なお、文中においては、双極症<双極性障害>や適応反応症<適応障害>のように、ICD-11病名に加えて、ICD-10病名などの相当する病名を括弧に入れて記載してあります。

医師としての基本的価値観や資質・能力を身につけるために、必修科目である精神科研修が充実したものになるよう、このハンドブックが活用されることを期待しています。

令和2年3月

日本精神神経学会 医師臨床研修制度に関する検討委員会委員長 米田 博
日本精神神経学会 理事長 神庭重信

※本書の症例提示の症例は、特記したものを除き実症例ではない。

目次

はじめに 米田 博, 神庭重信 iv

1 章 精神科研修で学ぶ医学と医療の基本 福田正人 1

2 章 精神科研修—国民病としての精神疾患についての学び 森 隆夫 7

3 章 精神科医療における倫理の特徴 水野雅文 11

4 章 症例を通した学び 15

1 基本

精神科面接 池田暁史 15

2 症候

抑うつ状態(躁・軽躁も) 樋口輝彦 19

不眠 山寺 亘 23

興奮 平田豊明 26

もの忘れ 數井裕光 30

せん妄 八田耕太郎 34

けいれん発作および非けいれん性発作 曾根大地, 渡辺雅子 38

体重減少, るい瘦 永田利彦 42

3 疾患

うつ病 井上 猛, 林田泰斗 45

統合失調症 池淵恵美 48

認知症(ケアとBPSDへの対応) 浏览野勝弘 51

パニック症<パニック障害> 清水栄司, 関 陽一 54

物質使用症 松本俊彦 57

嗜癖行動症(ギャンブル行動症, ゲーム行動症) 松崎尊信, 樋口 進 60

摂食症<摂食障害> 西園マーハ文 63

成長・発達の障害(成人期) 金生由紀子 66

児童・青年期精神科領域(神経発達症<発達障害>) 松本英夫 70

4 ケアの形

退院支援から地域包括ケアまで	山之内芳雄	73
児童虐待	近藤直司	76
せん妄ケアのエッセンス—中でも低活動型に焦点をあてて	明智龍男	80
緩和ケアにおける精神科医の役割	内富庸介	83
精神疾患の患者の妊娠・出産	小笠原一能, 尾崎紀夫	87
精神保健福祉法	岡崎伸郎	90
精神科診療所の役割	紫藤昌彦	94

5 章**トピックス**

97

1 治療の展開

認知行動療法	大野 裕	97
アウトリーチ	伊藤順一郎	98
ニューロモデュレーション(m-ECT, rTMS)	中村元昭	99
精神疾患の予防	鈴木道雄	100

2 社会的な側面

自殺	河西千秋	101
産業精神保健・リワーク	井上幸紀	103
アンチスティグマ	秋山 剛	104
LGBT	康 純	105
ひきこもり	斎藤 環	106
在日・居留外国人	岸本年史	107
処方薬依存	成瀬暢也	108
医療観察法	五十嵐禎人	109
てんかん	渡邊さつき, 渡辺雅子	110

3 研究の展開

画像研究	村井俊哉	111
遺伝子研究	加藤忠史	112
ケースレジストリ	中込和幸	113
症例報告	久住一郎	114

4 人を知る

心理テスト	津川律子	115
精神鑑定	岡田幸之	116
病跡学	小林聡幸	117